「食」のプロジェクト

ロハスフェスタ@万博でのワークショップ開催

所員　今　堀　洋　子
（地域創造学部准教授）

1. はじめに

今年度のミツバチプロジェクトは，5 月 8 日に，安威キャンパスの桜並木の正門近くの桜の幹に分蜂しているニホンミツバチの群を発見し，観察することから始まった（図 1 参照）。残念ながら今年は確保することができなかったが，安威キャンパス付近では，ニホンミツバチが生息し，活動していることがわかり安心した。5 月中旬に，伏見のミツバチ愛好家の田中家を訪問し，ニホンミツバチの様子を観察することができ，6 月に，改めて田中さん達とミツバチ談義を行った。そして昨年に続いて，11 月に開催された万博でのロハスフェスタで，「蜜ロウでキャンドルづくり」というワークショップを開催した。ここでは，その内容について報告する。

2.「蜜ロウでキャンドルづくり」のワークショップ

万博記念公園で年に数回開催されているロハスフェスタは，長年開催されているイベントで，多い時には数万人の来場者が訪れる人気のイベントである。そのロハスフェスタに，毎年ブース出展をしている彩都建設推進協議会からの誘いで，今年もミツバチに関する半日ワークショップを開催する運びとなった。ワークショップの内容として，ニホンミツバチの蜜ロウを使ってキャンドルづくりをすることにした。

今年，スタッフとして関わってくれたのは，追大ミツバチプロジェクトの OG, OB 3 名と，生物部の 6 名の計 9 名であった。材料の蜜ロウは，昨年，伏見のミツバチ愛好家の田中正志さんから分けていただいたものを活用した。その蜜ロウを溶かして，型に流し込み，麻ヒモを芯にしてキャンドルをつくった。今年は，ろうそくに色をつける試みとして，クレパスを溶かしこんだ。その作業に入る前に，絵本を使って，ミツバチについて紹介する機会も設けた。スタッフがミツバチや生物に詳しいメンバーであったため，ミツバチの説明には熱が入っていた。2 時間半にわたるワークショップであったが，ひっきりなしに参加者がおり大盛況であった。当日のワークショップの様子は，図 2 に示す通りである。

ワークショップの参加者は 121 名（大人 54 名，子ども 67 名）と，昨年の倍以上の参加者となった。表 1 のうち 14 名の保護者の方にはアンケートに答えていただいた。結果を表 1 に示す。「子供が参加できるワークショップがあってよかった」，「わかりやすく，子供に説明してくれてありがとうございます」，「生き物に関心があるので良かった」など，概ね好評であった。

3. おわりに

昨年に引き続き，「蜜ロウでキャンドルづくり」のワークショップを開催した。今年は，先鋭のスタッフがそろったこともあり，参加者の満足度も高く，昨年より 2 倍以上の人達へのサービスを提供することができた。ワークショップを通じて，ミツバチについて知ってもらう良い機会ともなった。需要があることはわかったので，毎年続けていきたいところだが，依頼元の彩都建設推進協議会が，2020 年は出展をしないとのことなので，大学として，ロハスフェスタに出展することも検討してみても良いのではないだろうか。



図 1　安威キャンパスの桜の木のニホンミツバチの分蜂群（2019 年 5 月 8 日）



図 2 「蜜ロウでキャンドルづくり」のワークショップの様子

表 1 「蜜ロウでキャンドルづくり」のワークショップ参加者のアンケート結果

		参加者の住まい				WSの感想			
		吹田市内	大阪市内	彩都	その他	よかった	ふつう	よくなかった	具体的な感想
11/4 追手門	1				東大阪市	○			生き物に興味があるので、よかったです。
	2				○	○			
	3				○	○			初めに説明してくれるのは良かったです。
	4				○	○			
	5				○	○			
	6				○	○			子どもにクイズなども出してくれて楽しんでました。
	7				○	○			クイズが楽しそうだった。
	8				茨木市	○			
	9				茨木市	○			子供の参加できるワークショップがあり、とても楽しく参加できた。
	10		○			○			ハチの説明などがあって良かった
	11				八尾市	○			
	12			○		○			
	13				泉佐野市 和泉市	○			
	14				摂津市	○			
	15				堺市	○			
	16				豊中市	○			
	17				奈良	○			知らなかったので、楽しかったです。
	18				兵庫県	○			
	19				茨木市	○			子供が気軽に参加できて良かったです。
	20				○	○			
	21				京都市	○			分りやすく、子供に教えてくれてありがとうございます